

ニデックオートレンズメータ 例) LM-870 説明書より抜粋

(28) 軸打ちレバー
 レンズに軸打ちする時に使います。マーキングはレンズ受台に平行に三点打たれます。

(1) 表示部
 CRT(2)とLED(3)により構成されており、測定値やターゲットなどが表示されます。

(11) 加入度数測定モードスイッチ
 加入度数を測定する際に、このスイッチを"ON"にします。2回押すと"OFF"になります。加入度数測定モード中はスイッチのLEDが点灯しています。

(9) リードスイッチ
 このスイッチを"ON"にすると、測定値の読みと読み込まれた測定値の表示が行われます。

(12) プリズム測定モードスイッチ
 このスイッチが"ON"の時に表示部の画面はプリズム測定用に切替わります。プリズム測定モード中はスイッチのLEDが点灯しています。

(10) クリアスイッチ
 このスイッチを"ON"にすると、CRT上の読み込まれた測定値がクリアされます。また、加入度数測定モードとR/L表示もクリアできます。

(16) レフトスイッチ
 被検レンズが左眼用であることを指示する場合に、このスイッチを"ON"にします。"ON"にしますとCRTの左上に"LEFT"の表示がされます。解除はクリアスイッチ(10)で行います。

(17) ライトスイッチ
 被検レンズが右眼用であることを指示する場合に、このスイッチを"ON"にします。"ON"にしますとCRTの左上に"RIGHT"の表示がされます。解除はクリアスイッチ(10)で行います。

(20) メモリースイッチ
 このスイッチを一度押すとLEDが点灯し、再度押すとLEDは消灯します。LEDが点灯している状態では、読み込まれた測定結果(R又はL、SPH、CYL、ADD)が128回まで記憶されます。ここでプリントスイッチ(21)を"ON"にしますと、記憶されていた結果はすべてプリントアウトされ、メモリーはクリアされます。メモリー数はCRT上のメッセージ表示部分(7)に表示されます。メモリーされている内容をすべてクリアしたい場合はメモリースイッチをもう一度押します。この時スイッチのLEDは消灯します。今、読みませた値だけをクリアしたい場合はクリアスイッチを"ON"にします。

(25) ブライトツマミ
 このツマミによりCRT(2)の輝度を調整することができます。

(30) レンズ押えノブ
 レンズを押えていない状態で、このノブを少し上げると、クリックがはずれてレンズ押えが下降し、レンズを固定することができます。レンズ押えをカチッと音がするまで上げるとクリックが入り上方で固定されます。

(21) プリントスイッチ
 このスイッチを"ON"にすると"測定値"がプリントアウトされます。

(29) インクツボ
 中のパッドに軸打ち用のインクを浸み込ませておきます。

(19) コンタクトスイッチ
 このスイッチを一度押すとLEDが点灯し、再度押すとLEDは消灯します。LEDが点灯している状態で、コンタクトレンズ(ハード)の測定が可能です。

(31) レンズ押え
 レンズを傷付けない様に先端にはゴムが付いています。セッティング後の若干の移動も行えます。

(18) アド・ファーススイッチ
 加入度数を計算するための遠用部データを読み込ませる時にこのスイッチを"ON"にします。

(26) レンズ受台
 メガネフレームに入ったレンズを測定する際、フレームをレンズ受台にセットすることにより、測定しているレンズが左眼用であるか右眼用であるか検知することができます。

(24) プリズムモード切換えスイッチ
 このスイッチにより、プリズムの表示をBASE IN、OUT、UP、DOWN表示する方法とプリズム量、基底方向を表示する方法の2種類に切換えることができます。ただし、読み込まれた測定結果の表示方法は切換えることができません。

(32) ノーズピース
 測定時の基点でありますので、レンズに傷を付けない様に、又、変形しない様に配慮した樹脂を使用しています。コンタクトレンズを測定する時は、付属品のコンタクトレンズ用ノーズピースと交換します。

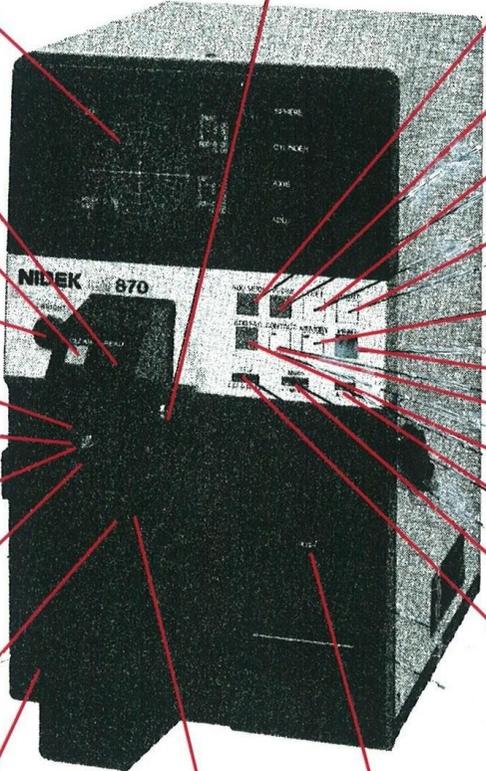
(23) モード切換えスイッチ
 このスイッチにより、MIX読み、+読み、-読みを選択することができます。但し、読み込まれた測定結果のモードを切換えることはできません。

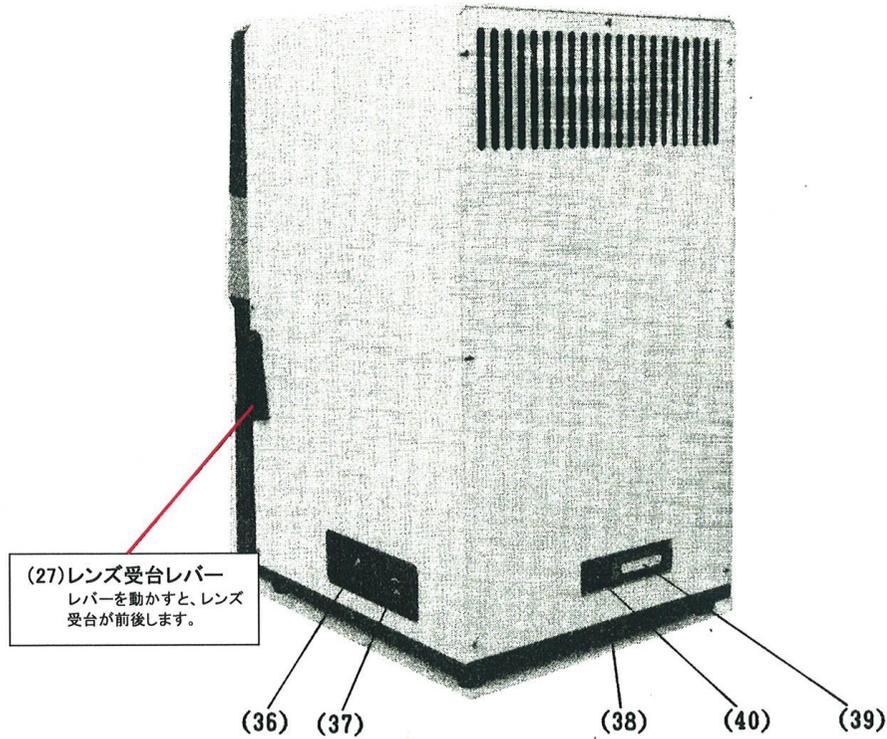
(33) 被検レンズ径測定目盛
 レンズ受台を被検レンズ外径に当てることにより、被検レンズ径を読み取れます。

(22) ステップ切換えスイッチ
 このスイッチにより、屈折力のステップを0.01、0.12、0.25Dの3段階に、プリズム屈折力のステップを0.12、0.25Δの2段階に切換えることができます。但し、読み込まれた測定結果のステップを切換えることはできません。

(35) 電源スイッチ

(34) プリンターカバー
 プリンターが内に入っていますので、プリンター用紙を交換する際はPUSH印を押して開いて下さい。



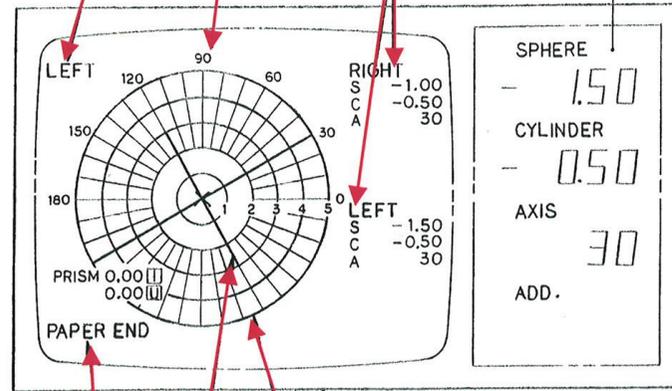


(6) R/L 表示部
測定中のレンズが右眼用か左眼用かを表示します。

(2) CRT

(8) 読み込み値表示部
読み込まれた測定値が表示されます。

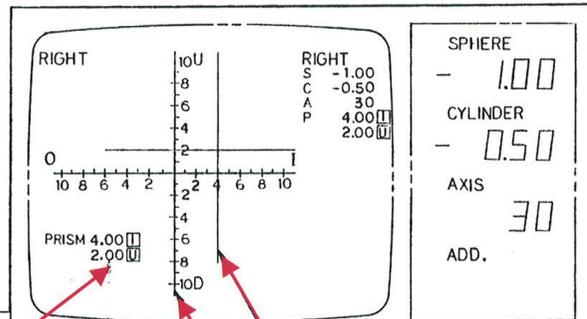
(3) LED
SPH, CYL, AXIS, ADD の測定値が表示されます。



(7) メッセージ表示部
エラーメッセージ、プリンター用紙切れ等が表示されます。

(5) 同心円目盛
同心円は1°間隔で刻まれています。(加入度数測定モード中は2°間隔となります。)

(4) ターゲット A
長軸は常に乱視軸角度を示しています。また、レンズを挿入してもピントは常にあるため、ボケることはありません。



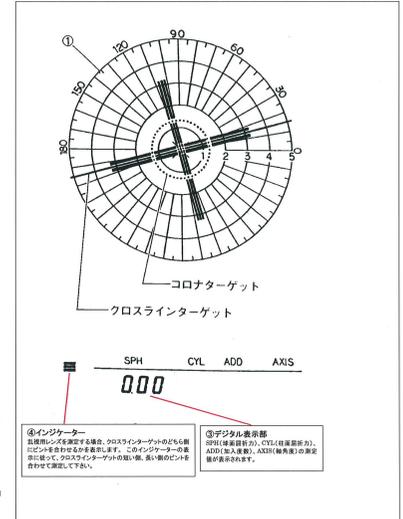
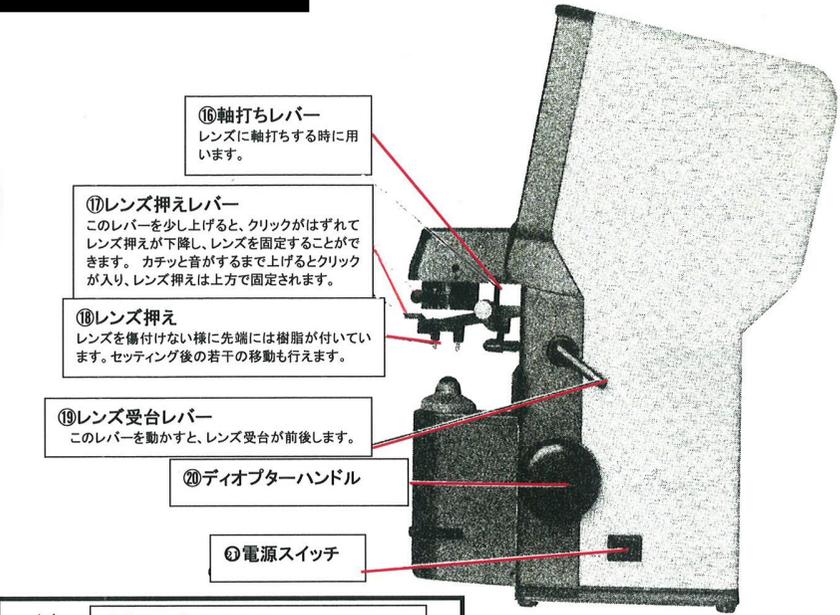
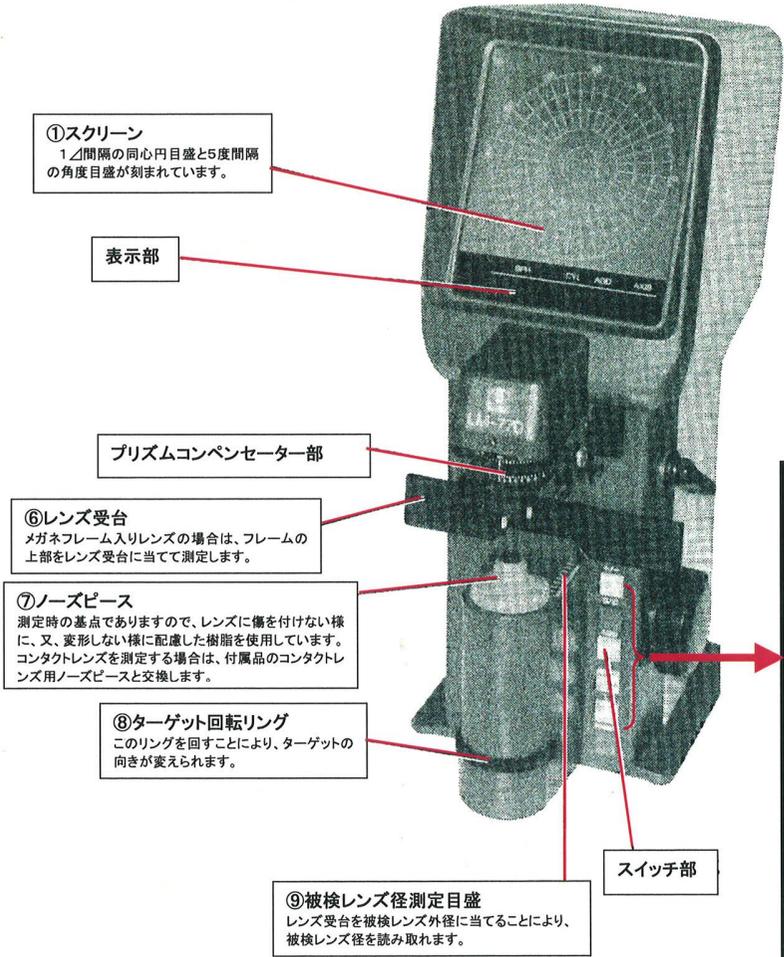
(15) プリズム度数表示部
プリズム度数の測定値が表示されます。

(14) 方眼目盛
縦・横軸共に1°単位で刻まれています。

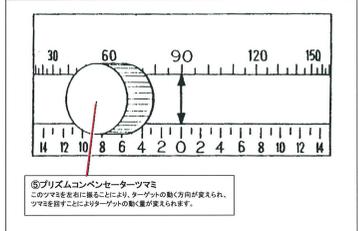
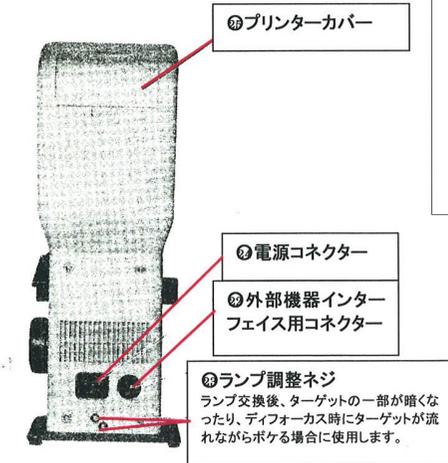
(13) ターゲット P
方眼目盛(14)との交点が、プリズム度数を示しています。また、ターゲット P は乱視用レンズを挿入してもターゲット A(4)のように回転することはありません。

ニデック投影式レンズメータ 例) LM-770

説明書より抜粋

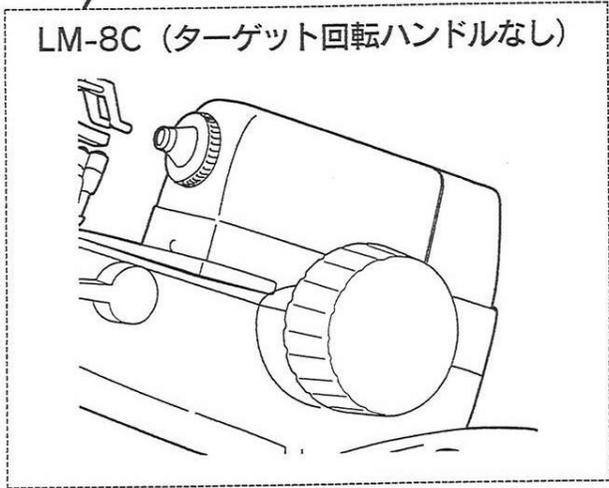
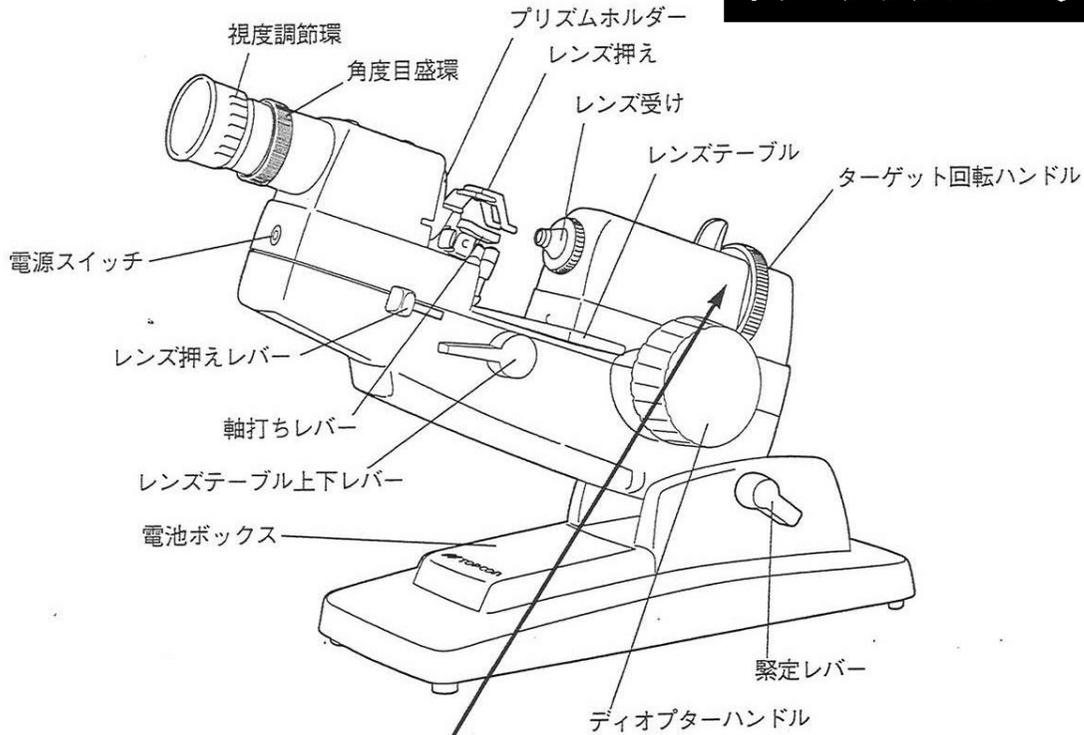


+/−	⑩符号切換スイッチ 測定値表示に対して逆のシリンダー読みを行いたい場合に用います。再度押すと、元の表示に戻ります。
S/C	⑪S/C 測定切換スイッチ このスイッチを押すことにより SPH/CYL 測定モードの切り替えが行われます。また、ADD 測定モード、メモリー表示モードから SPH 測定モードへの復帰もこのスイッチで行えます。
ADD	⑫ADD 測定スイッチ このスイッチを押すと、ADD 測定モードになります。ADD 測定モードでは、デジタル表示部の CYL 表示部が ADD 表示部となります。
R	⑬RIGHT スイッチ
L	⑭LEFT スイッチ メガネフレーム入りレンズの測定において、左右の測定値をメモリーさせるのに用います。また、メモリーすると、SPH 測定モードに戻ります。
PRINT	⑮PRINT スイッチ このスイッチを押すと、デジタル表示部に表示されている測定値がプリントアウトされ、SPH 測定モードに戻ります。測定値がメモリーされている場合は、メモリーされている内容がプリントアウトされ、メモリーは消去されます。また、押し続けると紙送りが行えます。



トプコンレンズメータ 例)LM-8 定法

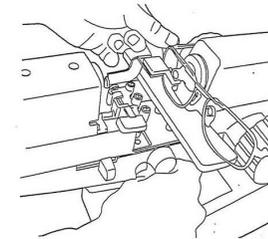
説明書より抜粋



フレームに入った乱視レンズの測定

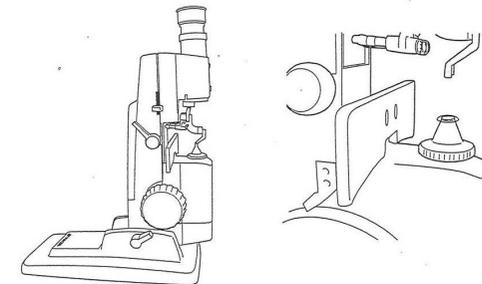
眼鏡フレームをレンズテーブルの上にのせます。フレームをレンズテーブルに押しあてて光軸を合わせてください。屈折力は前と同じ方法で求められますが、乱視軸の方向は、強い方の屈折力を図っている状態にピントを合わせます。主径線の方向にピントが合うようにします。線が一致するようにターゲット回転ハンドルを回します。△指標が示した角度が乱視の軸です。

[LM-8C] : スケールを回転させて主径線の方向に合わせます。



コンタクトレンズの測定

レンズ受けを外し、レンズメータを垂直に立ててコンタクトレンズ受けに変更しコンタクトレンズをのせます。



メモ コンタクトレンズ受けは、電池ボックス内に収納できます。